



HP「辻よし子と歩む会」で検索



「辻よし子と歩む会」

☎ 190-0154

あきる野市高尾 182-1 佐橋方

電話 & FAX : 042-596-4569

e-mail : kusasigi@nifty.com

共同代表 : 柏倉倫子・岩田純子

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず、コツコツと手作りの政治を！



下水道予算と市議会の役割

～ 3 月議会を傍聴して～

3 月議会で辻さんは汚水処理計画に関する一般質問を行った。この問題について辻さんは 5 年前から計 7 回質問している。新たな下水道敷設は人口密度の低い地域では市財政の大きな負担になるので、性能がよく設置費用が少ない浄化槽に転換していくべきであると主張してきた。しかし、市からはあいかわらず下水道ありきの計画が出され、その一部が今年度の予算で執行されることになっていたのである。

辻さんは東京 26 市の中で最も財政状況の悪いあきる野市で、借金の 3 分の 1 を占める下水道事業をこのまま続けるのではなく、各地域を下水道にするか浄化槽にするかを定める判断基準の見直しを訴えたが、担当部長から前向きな回答は得られなかった。ただ、副市長は見直しへの一定の理解を示したので、今後に一縷の望みを残すことになった。

議会最終日、辻さんの反対にもかかわらず、下水道予算は賛成多数で可決されてしまった。しかし、評価すべきこととして、これまで下水道関連予算に賛成してきた共産党が、「費用対効果」という側面から浄化槽への政策転換の必要性があるという理由で初めて反対に回った。一方、賛成した議員は賛成理由を述べることは一切なく、したがって議論も行われなかった。これは市民に対してあまりにも不誠実ではないか。賛成なら賛成、反対なら反対、議員はその理由を述べて議論すべきである。それなくして議会本来の役割を果たすことなどあり得ないだろう。(T・K 草花在住)



選択的夫婦別姓制度の導入を求める

意見書可決、国は速やかな法制化を！

結婚後、夫婦が望むのであれば、それぞれの氏を名乗ることができるようにする制度の法制化を求める意見書が 3 月議会で可決された。結婚による戸籍名変更の煩雑さをほとんど女性が担っている今、その不公平さを思えば当然のことだと思う。

たった 10 年前、あきる野市議会に「選択的夫婦別姓制度に反対する陳情」というものが出されて、賛成多数で採択されていたと聞いてびっくりした。戦後まもなく生まれた私は、新しい憲法のもとでの男女平等、結婚はパートナーと対等な家庭を築くものと教えられ、でも実際には現実とのギャップと闘いながら（笑）過ごしてきた。その頃、ある国会議員は「結婚したら夫の姓にするのは当たり前、家の墓守は誰がするんだ」などと平気で発言していた。結婚＝夫の家に入る、夫に仕えるという発想は根が深くて今でも世の中の意識の奥にしっかり生き続けている。夫婦同氏はそれと根っこがつながっているように思える。法律で夫婦同氏制を義務付けている国は、日本以外にないらしい。実際には現代の日本では、パートナーを持たないことを選ぶ人も多いし、子どもを持たない夫婦も、離婚してシングルで子どもを育てる人も増えている。男女の一对ではなく、LGBT の人たちがイメージしていく暮らしもある。日本の家族の形はどんどん多様化しているのだ。

ひとつの家族にひとつの氏という家族のうわべの形だけにこだわって現実を見ないでいることは新たな不幸を作り出しているとさえ思える。国が一日でも早く選択的夫婦別姓を法制化することを求めたい。

(M・A 小川東在住)

新型コロナによる休校問題

新型コロナウイルス感染拡大により、安倍首相の一言で、全国の学校が一斉休校となった。校庭も使用禁止となり、当時小4だった息子が加入していたサッカーチームの練習も中止になってしまった。他市で校庭開放している所もあると聞いて、市役所の教育委員会に申し入れに足を運んだ。他市の話や、市内でもほぼ校庭開放している河川沿いの小学校があること、公園は子どもたちで溢れかえっている状態であることを話した。何より、子どもたちがこの状況の中でも、屋外で自由に遊べる時間を作りたかった。

担当者の方も小学生のお子さんがいるということで、気持ちは汲んでくれ、「会議にかけてみます」と言ってくれたが、再度問い合わせてみたところ、やはり使用禁止の姿勢は変わらなかった。わかっていたような結果だが、ガックリした。子どもをもつ親としては、市や教育委員会には、国の要請をそのまま市民に伝えるのではなく、1回咀嚼して欲しかった。

国内の感染者発表が日ごと増加し、休校もいつまで続くのか？と思う。我が子は案外気ままに過ごしているが、大好きなサッカーもすることが出来ず、子どもたちが不安な気持ちを抱えていることに変わりはない。

国は経済に関わることには慎重だ。ならば、子どもたちの在り方についても熟考できたのではないか？ いずれ大人になるのは今の子どもたち。優先させるべきは何なのか、もう一度考えるべきだと思う。(4月6日寄稿)

(H・S 野辺在住)



誰のための、何のための東京五輪ですか？

「福島原発の汚染水はコントロールされている」という安倍首相の嘘で決まった東京五輪。「東京の夏は競技に適している」と報告書に書いた嘘は、さすがにバレて、マラソン・競技会場は札幌にされたけれど、招致に不正な金が使われた疑惑も闇の中……。おかしいですね。

「復興五輪」のはずが、五輪関連の工事に人も資材も集中し、被災地の復興は遅れているし、増え続ける汚染水を福島に捨てようとしている。また、新国立競技場は何とか完成したけれど、突貫工事で過労死する人を出し、周辺で暮らすホームレスの人たちや団地住民を追い出したりしたことを忘れないでください。

いったい、誰のため、何のための東京五輪ですか？
答は「政財界の利益のため」でしょう。

熱中症の危険があっても真夏にやるのは米国テレビの視聴率のため。五輪憲章に反して国と国とがメダルを争うのは「国威発揚」のため。マスコミまでメダルや順位で騒ぐから、ドーピングなどの不正が絶えず、スポーツを歪めてしまう。もっとスポーツを楽しみ、素晴らしい演技には、それが他国の選手であろうと、素直に感動できる心をなくしてほしくありません。

スポーツが好きな私でも様々な疑問を持つ東京五輪。スポーツに興味のない人は、この騒ぎをどう感じているのでしょうか。「新型コロナ」で延期になったけれど、いっそやめた方がいい。東京五輪に注ぎ込まれる多額の税金は、もっと支援を必要としている人たちのために使ってほしいと思います。(S・K 高尾在住)

無所属
一人会派

辻よし子・プロフィール

1960年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぼう会」を中心に、市内の環境保全活動に取り組む。3.11以後、新たに脱原発の市民活動を始める。2015年10月の補欠選挙で市議に当選。現在、2期目。草花で、夫と次男、ネコ1匹と暮らす。

